

行列式

復習. 2×2 行列の行列式は次のように定義される

$$\det \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = ad - bc.$$

連立一次方程式

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

の解はクラームルの公式で計算することができる:

$$x_1 = \frac{\det \begin{bmatrix} 5 & 2 \\ 6 & 4 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}} \quad x_2 = \frac{\det \begin{bmatrix} 1 & 5 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}}.$$

問題

行列式とクラームルの公式を一般化すること.

行列式

復習. 2×2 行列の行列式は次のように定義される

$$\det \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = ad - bc.$$

連立一次方程式

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

の解はクラームルの公式で計算することができる:

$$x_1 = \frac{\det \begin{bmatrix} 5 & 2 \\ 6 & 4 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}} \quad x_2 = \frac{\det \begin{bmatrix} 1 & 5 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}}.$$

問題

行列式とクラームルの公式を一般化すること.

行列式

復習. 2×2 行列の行列式は次のように定義される

$$\det \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = ad - bc.$$

連立一次方程式

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 6 \end{bmatrix}$$

の解はクラームルの公式で計算することができる:

$$x_1 = \frac{\det \begin{bmatrix} 5 & 2 \\ 6 & 4 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}} \quad x_2 = \frac{\det \begin{bmatrix} 1 & 5 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}}{\det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}}.$$

問題

行列式とクラームルの公式を一般化すること.

定義

$\{1, \dots, n\}$ から $\{1, \dots, n\}$ への1対1の写像を n 文字の置換 (permutation) という.

- 置換 σ が

$$1 \rightarrow k_1, \quad 2 \rightarrow k_2, \dots, n \rightarrow k_n$$

という写像のときに, σ を

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix} \quad (1)$$

と表す. つまり, 下の数字は上の数字の行き先を示す.

(1)の上下の組み合わせが変わらない限り、順序は変えても良い.
また、動かさない文字は省略しても良い.

-

$$\sigma(1) = k_1, \dots, \sigma(n) = k_n$$

とも書く.

定義

$\{1, \dots, n\}$ から $\{1, \dots, n\}$ への1対1の写像を n 文字の置換 (permutation) という.

- 置換 σ が

$$1 \rightarrow k_1, \quad 2 \rightarrow k_2, \dots, n \rightarrow k_n$$

という写像のときに, σ を

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix} \quad (1)$$

と表す. つまり, 下の数字は上の数字の行き先を示す.

(1)の上下の組み合わせが変わらない限り、順序は変えても良い.
また、動かさない文字は省略しても良い.



$$\sigma(1) = k_1, \dots, \sigma(n) = k_n$$

とも書く.

定義

$\{1, \dots, n\}$ から $\{1, \dots, n\}$ への1対1の写像を n 文字の置換 (permutation) という.

- 置換 σ が

$$1 \rightarrow k_1, \quad 2 \rightarrow k_2, \dots, n \rightarrow k_n$$

という写像のときに, σ を

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix}$$

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix} \quad (1)$$

と表す. つまり, 下の数字は上の数字の行き先を示す.

(1)の上下の組み合わせが変わらない限り、順序は変えても良い.
また、動かさない文字は省略しても良い.

$$\sigma(1) = k_1, \dots, \sigma(n) = k_n$$

とも書く.

定義

$\{1, \dots, n\}$ から $\{1, \dots, n\}$ への1対1の写像を n 文字の置換 (permutation) という.

- 置換 σ が

$$1 \rightarrow k_1, \quad 2 \rightarrow k_2, \dots, n \rightarrow k_n$$

という写像のときに, σ を

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix} \quad (1)$$

と表す. つまり, 下の数字は上の数字の行き先を示す.

(1)の上下の組み合わせが変わらない限り、順序は変えても良い.
また、動かさない文字は省略しても良い.

-

$$\sigma(1) = k_1, \dots, \sigma(n) = k_n$$

とも書く.

定義

$\{1, \dots, n\}$ から $\{1, \dots, n\}$ への1対1の写像を n 文字の置換 (permutation) という.

- 置換 σ が

$$1 \rightarrow k_1, \quad 2 \rightarrow k_2, \dots, n \rightarrow k_n$$

という写像のときに, σ を

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix} \quad (1)$$

と表す. つまり, 下の数字は上の数字の行き先を示す.

(1)の上下の組み合わせが変わらない限り、順序は変えても良い.
また、動かさない文字は省略しても良い.

-

$$\sigma(1) = k_1, \dots, \sigma(n) = k_n$$

とも書く.

σ が1対1の写像なので,

$$\{\sigma(1), \dots, \sigma(n)\} = \{1, \dots, n\}.$$

Example

置換 $\sigma : \{1, 2, 3, 4\} \rightarrow \{1, 2, 3, 4\}$

$$\sigma(1) = 3, \sigma(2) = 2, \sigma(3) = 4, \sigma(4) = 1$$

は次のように表せる:

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 2 & 4 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 4 & 1 & 3 \\ 2 & 1 & 3 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 4 & 1 & 3 \\ 1 & 3 & 4 \end{pmatrix}.$$

σ が1対1の写像なので,

$$\{\sigma(1), \dots, \sigma(n)\} = \{1, \dots, n\}.$$

Example

置換 $\sigma : \{1, 2, 3, 4\} \rightarrow \{1, 2, 3, 4\}$

$$\sigma(1) = 3, \sigma(2) = 2, \sigma(3) = 4, \sigma(4) = 1$$

は次のように表せる:

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 2 & 4 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 4 & 1 & 3 \\ 2 & 1 & 3 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 4 & 1 & 3 \\ 1 & 3 & 4 \end{pmatrix}.$$

置換の積

定義

二つの n 文字の置換 σ, τ の積 $\sigma\tau$ を

$$(\sigma\tau)(i) = \sigma(\tau(i)), \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

と定義する.

Example

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 4 & 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}, \tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 3 & 4 & 1 \end{pmatrix} \text{ のとき,}$$

$$\sigma\tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 1 & 2 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$

置換の積

定義

二つの n 文字の置換 σ, τ の積 $\sigma\tau$ を

$$(\sigma\tau)(i) = \sigma(\tau(i)), \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

と定義する.

Example

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 4 & 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}, \tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 3 & 4 & 1 \end{pmatrix} \text{ のとき,}$$

$$\sigma\tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 1 & 2 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$



p42 l.

置換の逆置換

定義

全ての文字を動かさない置換を ϵ と書き、単位置換(identity permutation)という。

置換 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix}$ に対して,

$$\sigma^{-1} = \begin{pmatrix} k_1 & k_2 & \dots & k_n \\ 1 & 2 & \dots & n \end{pmatrix}$$

とおき、 σ の逆置換(inverse permutation)という。

注意

$$\sigma\sigma^{-1} = \sigma^{-1}\sigma = \epsilon.$$

置換の逆置換

定義

全ての文字を動かさない置換を ϵ と書き, 単位置換(identity permutation)という.

置換 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & \dots & n \\ k_1 & k_2 & \dots & k_n \end{pmatrix}$ に対して,

$$\sigma^{-1} = \begin{pmatrix} k_1 & k_2 & \dots & k_n \\ 1 & 2 & \dots & n \end{pmatrix}$$

とおき, σ の逆置換(inverse permutation)という.

注意

$$\sigma\sigma^{-1} = \sigma^{-1}\sigma = \epsilon.$$

Example

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \end{pmatrix} \text{ならば,}$$

$$\sigma^{-1} \stackrel{\text{def.}}{=} \begin{pmatrix} 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \\ 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 3 & 5 & 4 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$

Definition

$\{1, \dots, n\}$ の置換全体を n 次対称群(symmetric group)と呼び、 S_n と書く.

- 注意 S_n の元の個数は $n!$ である.

Example

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \end{pmatrix} \text{ならば,}$$

$$\sigma^{-1} = \begin{pmatrix} 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \\ 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 3 & 5 & 4 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$

Definition

$\{1, \dots, n\}$ の置換全体をn次対称群(symmetric group)と呼び、 S_n と書く.

- 注意 S_n の元の個数は $n!$ である.

Example

$$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \end{pmatrix} \text{ならば,}$$

$$\sigma^{-1} = \begin{pmatrix} 4 & 5 & 1 & 3 & 2 \\ 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 3 & 5 & 4 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$

Definition

$\{1, \dots, n\}$ の置換全体を n 次対称群(symmetric group)と呼び、 S_n と書く.

- 注意 S_n の元の個数は $n!$ である.

巡回置換と互換

Definition

- $r \geq 2$, $\{1, \dots, n\}$ の互いに異なる k_1, \dots, k_r に対して, 置換

$$\sigma = \begin{pmatrix} k_1 & k_2 & \dots & k_r \\ k_2 & k_3 & \dots & k_1 \end{pmatrix} \in S_n$$

を巡回置換(cyclic permutation)といい,

$$\sigma = (k_1 \ k_2 \ \dots \ k_r)$$

と書く.

- $(k_1 \ k_2)$ の巡回置換($r = 2$)を互換(transposition)と呼ぶ.

Example

$\sigma = (2 \ 5 \ 3)$ とすると, 次が成り立つ.

$$\sigma(2) = 5, \quad \sigma(5) = 3, \quad \sigma(3) = 2, \quad \sigma(k) = k \quad k \notin \{2, 5, 3\}.$$

巡回置換と互換

Definition

- $r \geq 2$, $\{1, \dots, n\}$ の互いに異なる k_1, \dots, k_r に対して, 置換

$$\sigma = \begin{pmatrix} k_1 & k_2 & \dots & k_r \\ k_2 & k_3 & \dots & k_1 \end{pmatrix} \in S_n$$

を巡回置換(cyclic permutation)といい,

$$\sigma = (k_1 \ k_2 \ \dots \ k_r)$$

と書く.

- $(k_1 \ k_2)$ の巡回置換($r = 2$)を互換(transposition)と呼ぶ.

Example

$\sigma = (2 \ 5 \ 3)$ とすると, 次が成り立つ.

$$\sigma(2) = 5, \quad \sigma(5) = 3, \quad \sigma(3) = 2, \quad \sigma(k) = k \quad k \notin \{2, 5, 3\}.$$

巡回置換と互換

Definition

- $r \geq 2$, $\{1, \dots, n\}$ の互いに異なる k_1, \dots, k_r に対して, 置換

$$\sigma = \begin{pmatrix} k_1 & k_2 & \dots & k_r \\ k_2 & k_3 & \dots & k_1 \end{pmatrix} \in S_n$$

を巡回置換(cyclic permutation)といい,

$$\sigma = (k_1 \ k_2 \ \dots \ k_r)$$

と書く.

- $(k_1 \ k_2)$ の巡回置換($r = 2$)を互換(transposition)と呼ぶ.

Example

$\sigma = (2 \ 5 \ 3)$ とすると, 次が成り立つ.

$$\sigma(2) = 5, \quad \sigma(5) = 3, \quad \sigma(3) = 2, \quad \sigma(k) = k \quad k \notin \{2, 5, 3\}.$$

置換の分解

命題 (巡回置換の積への分解)

任意の置換は巡回置換の積で表される.

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ 4 & 1 & 6 & 2 & 7 & 5 & 3 \end{pmatrix}$ を巡回置換の積で表せる.

- 何か一つの文字, 例えば1を取り, 1がどう移っていくか見る.
 $\sigma(1) = 4, \sigma(4) = 2, \sigma(2) = 1, \sigma(1) = 4$ なので,
 σ と巡回置換 $(1 \ 4 \ 2)$ は1, 4, 2について, 同じ写像となる.
- 1, 4, 2以外の何か一つの文字, 例えば3を取り,
3がどう移っていくか見る.

$\sigma(3) = 6, \sigma(6) = 5, \sigma(5) = 7, \sigma(7) = 3, \sigma(3) = 6$ なので

σ と $(3 \ 6 \ 5 \ 7)$ は3, 6, 5, 7について, 同じ写像となる.

- よって, $\sigma = (3 \ 6 \ 5 \ 7)(1 \ 4 \ 2)$.

置換の分解

命題 (巡回置換の積への分解)

任意の置換は巡回置換の積で表される.

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ 4 & 1 & 6 & 2 & 7 & 5 & 3 \end{pmatrix}$ を巡回置換の積で表せる.

- 何か一つの文字, 例えば1を取り, 1がどう移っていくか見る.
 $\sigma(1) = 4, \sigma(4) = 2, \sigma(2) = 1, \sigma(1) = 4$ なので,
 σ と巡回置換 $(1 \ 4 \ 2)$ は1, 4, 2について, 同じ写像となる.
- 1, 4, 2以外の何か一つの文字, 例えば3を取り,
3がどう移っていくか見る.

$\sigma(3) = 6, \sigma(6) = 5, \sigma(5) = 7, \sigma(7) = 3, \sigma(3) = 6$ なので

σ と $(3 \ 6 \ 5 \ 7)$ は3, 6, 5, 7について, 同じ写像となる.

- よって, $\sigma = (3 \ 6 \ 5 \ 7)(1 \ 4 \ 2)$.

置換の分解

命題 (巡回置換の積への分解)

任意の置換は巡回置換の積で表される.

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ 4 & 1 & 6 & 2 & 7 & 5 & 3 \end{pmatrix}$ を巡回置換の積で表せる.

- 何か一つの文字, 例えば1を取り, 1がどう移っていくか見る.
 $\sigma(1) = 4, \sigma(4) = 2, \sigma(2) = 1, \sigma(1) = 4$ なので,
 σ と巡回置換 $(1 \ 4 \ 2)$ は1, 4, 2について, 同じ写像となる.
- 1, 4, 2以外の何か一つの文字, 例えば3を取り,
3がどう移っていくか見る.

$\sigma(3) = 6, \sigma(6) = 5, \sigma(5) = 7, \sigma(7) = 3, \sigma(3) = 6$ なので

σ と $(3 \ 6 \ 5 \ 7)$ は3, 6, 5, 7について, 同じ写像となる.

- よって, $\sigma = (3 \ 6 \ 5 \ 7)(1 \ 4 \ 2)$.

置換の分解

命題 (巡回置換の積への分解)

任意の置換は巡回置換の積で表される.

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ 4 & 1 & 6 & 2 & 7 & 5 & 3 \end{pmatrix}$ を巡回置換の積で表せる.

- 何か一つの文字, 例えば1を取り, 1がどう移っていくか見る.
 $\sigma(1) = 4, \sigma(4) = 2, \sigma(2) = 1, \sigma(1) = 4$ なので,
 σ と巡回置換 $(1 \ 4 \ 2)$ は1, 4, 2について, 同じ写像となる.
- 1, 4, 2以外の何か一つの文字, 例えば3を取り,
3がどう移っていくか見る.

$\sigma(3) = 6, \sigma(6) = 5, \sigma(5) = 7, \sigma(7) = 3, \sigma(3) = 6$ なので

σ と $(3 \ 6 \ 5 \ 7)$ は3, 6, 5, 7について, 同じ写像となる.

- よって, $\sigma = (3 \ 6 \ 5 \ 7)(1 \ 4 \ 2)$.

→ p42 2.

置換の分解

任意の巡回置換は

$$(k_1 \ k_2 \ \dots \ k_r) = (k_1 \ k_r)(k_1 \ k_{r-1}) \dots (k_1 \ k_2)$$

と表せる.

従って、巡回置換の積への分解の定理より、次の命題を得る.

命題 (互換の積への分解)

任意の置換は互換の積で表される.

置換の分解

任意の巡回置換は

$$(k_1 \ k_2 \ \dots \ k_r) = (k_1 \ k_r)(k_1 \ k_{r-1}) \dots (k_1 \ k_2)$$

と表せる.

従って、巡回置換の積への分解の定理より, 次の命題を得る.

命題 (互換の積への分解)

任意の置換は互換の積で表される.

置換の分解

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 \\ 7 & 6 & 8 & 2 & 1 & 4 & 9 & 3 & 5 \end{pmatrix}$ を互換の積に分解する.

- まず巡回置換の積に分解する：

$$1 \rightarrow 7 \rightarrow 9 \rightarrow 5 \rightarrow 1, \quad 2 \rightarrow 6 \rightarrow 4 \rightarrow 2, \quad 3 \rightarrow 8 \rightarrow 3$$

であるから

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 6 \ 4)(1 \ 7 \ 9 \ 5).$$

- 次に,互換の積に分解する:

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 4)(2 \ 6)(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7).$$

置換の分解

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 \\ 7 & 6 & 8 & 2 & 1 & 4 & 9 & 3 & 5 \end{pmatrix}$ を互換の積に分解する.

- まず巡回置換の積に分解する：

$$1 \rightarrow 7 \rightarrow 9 \rightarrow 5 \rightarrow 1, \quad 2 \rightarrow 6 \rightarrow 4 \rightarrow 2, \quad 3 \rightarrow 8 \rightarrow 3$$

であるから

$$\begin{aligned} \sigma &= (3 \ 8)(2 \ 6 \ 4)(1 \ 7 \ 9 \ 5). \\ &= (1 \ 7 \ 9 \ 5)(3 \ 8)(2 \ 6 \ 4) \\ &= (2 \ 6 \ 4)(1 \ 7 \ 9 \ 5)(3 \ 8) \end{aligned}$$

- 次に,互換の積に分解する:

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 4)(2 \ 6)(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7).$$

置換の分解

Example

$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 \\ 7 & 6 & 8 & 2 & 1 & 4 & 9 & 3 & 5 \end{pmatrix}$ を互換の積に分解する.

- まず巡回置換の積に分解する：

$$1 \rightarrow 7 \rightarrow 9 \rightarrow 5 \rightarrow 1, \quad 2 \rightarrow 6 \rightarrow 4 \rightarrow 2, \quad 3 \rightarrow 8 \rightarrow 3$$

であるから

$$\sigma = (3 \ 8) \overset{(2 \ 4)(2 \ 6)}{\boxed{2 \ 6 \ 4}} \overset{(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7)}{\boxed{1 \ 7 \ 9 \ 5}}.$$

- 次に, 互換の積に分解する:

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 4)(2 \ 6)(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7). \quad p42 \rightarrow 3.$$

置換の符号

Definition

- 置換 σ が m 個の互換の積で表されるとき,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) := (-1)^m$$

とおき, σ の符号(signature or sign)という.

ここで, $\operatorname{sgn}(\epsilon) := 1$ とする.

- $\operatorname{sgn}(\sigma) = 1$ となる σ を偶置換(even permutation),
 $\operatorname{sgn}(\sigma) = -1$ となる σ を奇置換(odd permutation)という.

注意

置換の互換の積への分解は1通りではない.

命題

置換 σ の符号 $\operatorname{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

置換の符号

Definition

- 置換 σ が m 個の互換の積で表されるとき,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) := (-1)^m$$

とおき, σ の符号(signature or sign)という.

ここで, $\operatorname{sgn}(\epsilon) := 1$ とする.

- $\operatorname{sgn}(\sigma) = 1$ となる σ を偶置換(even permutation),
 $\operatorname{sgn}(\sigma) \neq 1$ となる σ を奇置換(odd permutation)という.

注意

置換の互換の積への分解は1通りではない.

命題

置換 σ の符号 $\operatorname{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

置換の符号

Definition

- 置換 σ が m 個の互換の積で表されるとき,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) := (-1)^m$$

とおき, σ の符号(signature or sign)という.

ここで, $\operatorname{sgn}(\epsilon) := 1$ とする.

- $\operatorname{sgn}(\sigma) = 1$ となる σ を偶置換(even permutation),
 $\operatorname{sgn}(\sigma) = -1$ となる σ を奇置換(odd permutation)という.

注意

置換の互換の積への分解は1通りではない.

命題

置換 σ の符号 $\operatorname{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

置換の符号

Definition

- 置換 σ が m 個の互換の積で表されるとき,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) := (-1)^m$$

とおき, σ の符号(signature or sign)という.

ここで, $\operatorname{sgn}(\epsilon) := 1$ とする.

- $\operatorname{sgn}(\sigma) = 1$ となる σ を偶置換(even permutation),
 $\operatorname{sgn}(\sigma) = -1$ となる σ を奇置換(odd permutation)という.

注意

置換の互換の積への分解は1通りではない.

命題

置換 σ の符号 $\operatorname{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

置換の符号

Example

置換 $\sigma = (1 \ 2 \ 3 \ 4)$ は次のように互換の積で表される.

$$\sigma = (1 \ 4)(1 \ 3)(1 \ 2) = (1 \ 3)(1 \ 4)(3 \ 4)(2 \ 3)(1 \ 3).$$

表し方によらず,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) = (-1)^3 = (-1)^5 = -1.$$

Example

置換 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 \\ 7 & 6 & 8 & 2 & 1 & 4 & 9 & 3 & 5 \end{pmatrix}$ の符号を求めよ.

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 4)(2 \ 6)(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7) \quad \text{なので}$$

$$\operatorname{sgn}(\sigma) = (-1)^6 = 1.$$

置換の符号

Example

置換 $\sigma = (1 \ 2 \ 3 \ 4)$ は次のように互換の積で表される.

$$\sigma = (1 \ 4)(1 \ 3)(1 \ 2) = (1 \ 3)(1 \ 4)(3 \ 4)(2 \ 3)(1 \ 3).$$

表し方によらず,

$$\operatorname{sgn}(\sigma) = (-1)^3 = (-1)^5 = -1.$$

Example

置換 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 & 9 \\ 7 & 6 & 8 & 2 & 1 & 4 & 9 & 3 & 5 \end{pmatrix}$ の符号を求めよ.

$$\sigma = (3 \ 8)(2 \ 4)(2 \ 6)(1 \ 5)(1 \ 9)(1 \ 7) \quad \text{なので}$$

$$\operatorname{sgn}(\sigma) = (-1)^6 = 1.$$

置換の符号の性質

命題

次が成り立つ.

- ① $\sigma, \tau \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma\tau) = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau)$.
- ② $\sigma \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$.

Proof.

(1)を示す: σ が k 個, τ が ℓ 個の互換の積で表されるならば, $\sigma\tau$ は $k + \ell$ 個の互換の積で表される. よって,

$$\text{sgn}(\sigma\tau) = (-1)^{k+\ell} = (-1)^k(-1)^\ell = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau).$$

(2)を示す: (1)より,

$$\text{sgn}(\sigma^{-1})\text{sgn}(\sigma) = \text{sgn}(\sigma^{-1}\sigma) = \text{sgn}(\epsilon) = 1.$$

また, sgn の値は ± 1 なので, $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$. □

置換の符号の性質

命題

次が成り立つ.

- ① $\sigma, \tau \in S_n$ に対して $\operatorname{sgn}(\sigma\tau) = \operatorname{sgn}(\sigma)\operatorname{sgn}(\tau)$.
- ② $\sigma \in S_n$ に対して $\operatorname{sgn}(\sigma^{-1}) = \operatorname{sgn}(\sigma)$.

Proof.

(1)を示す: σ が k 個, τ が ℓ 個の互換の積で表されるならば, $\sigma\tau$ は $k + \ell$ 個の互換の積で表される. よって,

$$\operatorname{sgn}(\sigma\tau) = (-1)^{k+\ell} = (-1)^k(-1)^\ell = \operatorname{sgn}(\sigma)\operatorname{sgn}(\tau).$$

(2)を示す: (1)より,

$$\operatorname{sgn}(\sigma^{-1})\operatorname{sgn}(\sigma) = \operatorname{sgn}(\sigma^{-1}\sigma) = \operatorname{sgn}(\epsilon) = 1.$$

また, sgn の値は ± 1 なので, $\operatorname{sgn}(\sigma^{-1}) = \operatorname{sgn}(\sigma)$. □

置換の符号の性質

命題

次が成り立つ.

- ① $\sigma, \tau \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma\tau) = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau)$.
- ② $\sigma \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$.

Proof.

(1)を示す: σ が k 個, τ が ℓ 個の互換の積で表されるならば, $\sigma\tau$ は $k + \ell$ 個の互換の積で表される. よって,

$$\text{sgn}(\sigma\tau) = (-1)^{k+\ell} = (-1)^k(-1)^\ell = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau).$$

(2)を示す: (1)より,

$$\text{sgn}(\sigma^{-1})\text{sgn}(\sigma) = \text{sgn}(\sigma^{-1}\sigma) = \text{sgn}(\epsilon) = 1.$$

また, sgn の値は ± 1 なので, $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$. □

置換の符号の性質

命題

次が成り立つ.

- ① $\sigma, \tau \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma\tau) = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau)$.
- ② $\sigma \in S_n$ に対して $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$.

Proof.

(1)を示す: σ が k 個, τ が ℓ 個の互換の積で表されるならば, $\sigma\tau$ は $k + \ell$ 個の互換の積で表される. よって,

$$\text{sgn}(\sigma\tau) = (-1)^{k+\ell} = (-1)^k(-1)^\ell = \text{sgn}(\sigma)\text{sgn}(\tau).$$

(2)を示す: (1)より,

$$\text{sgn}(\sigma^{-1})\text{sgn}(\sigma) = \text{sgn}(\sigma^{-1}\sigma) = \text{sgn}(\epsilon) = 1.$$

また, sgn の値は ± 1 なので, $\text{sgn}(\sigma^{-1}) = \text{sgn}(\sigma)$.



$$\#S_3 = 3 \cdot 2 \cdot 1 = 6$$

Example

$$S_3 = \{\epsilon, (1\ 2), (1\ 3), (2\ 3), (1\ 2\ 3), (1\ 3\ 2)\}.$$

ここで,

$\epsilon, (1\ 2\ 3), (1\ 3\ 2)$ は偶置換,
 $(1\ 2), (1\ 3), (2\ 3)$ は奇置換である.

$$S_2 = \{ \epsilon, (1\ 2) \}.$$

sgnの定義について(1)

Goal: 置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $\Delta(x_1, \dots, x_n)$ を

$$\Delta(x_1, \dots, x_n) := \prod_{1 \leq i < j \leq n} (x_i - x_j)$$

とおき, n 変数の差積(difference product)という.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $f(x_1, \dots, x_n)$ と $\sigma \in S_n$ に対して, 多項式 σf を

$$(\sigma f)(x_1, \dots, x_n) := f(x_{\sigma(1)}, \dots, x_{\sigma(n)})$$

と定義する.

sgnの定義について(1)

Goal: 置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $\Delta(x_1, \dots, x_n)$ を

$$\Delta(x_1, \dots, x_n) := \prod_{1 \leq i < j \leq n} (x_i - x_j)$$

とおき, n 変数の差積(difference product)という.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $f(x_1, \dots, x_n)$ と $\sigma \in S_n$ に対して, 多項式 σf を

$$(\sigma f)(x_1, \dots, x_n) := f(x_{\sigma(1)}, \dots, x_{\sigma(n)})$$

と定義する.

sgnの定義について(1)

Goal: 置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $\Delta(x_1, \dots, x_n)$ を

$$\Delta(x_1, \dots, x_n) := \prod_{1 \leq i < j \leq n} (x_i - x_j)$$

とおき, n 変数の差積(difference product)という.

Definition

n 変数 x_1, \dots, x_n の多項式 $f(x_1, \dots, x_n)$ と $\sigma \in S_n$ に対して, 多項式 σf を

$$(\sigma f)(x_1, \dots, x_n) := f(x_{\sigma(1)}, \dots, x_{\sigma(n)})$$

と定義する.

sgnの定義について(2)

Lemma (I)

$\sigma, \tau \in S_n$ に対して,

$$\sigma(\tau\Delta) = (\sigma\tau)\Delta.$$

Proof.

$$\begin{aligned}\sigma((\tau\Delta)(x_1, \dots, x_n)) &= \sigma(\Delta(x_{\tau(1)}, \dots, x_{\tau(n)})) \\ &= \Delta(x_{\sigma\tau(1)}, \dots, x_{\sigma\tau(n)}) \\ &= (\sigma\tau)\Delta(x_1, \dots, x_n).\end{aligned}$$



Lemma (II)

$\sigma \in S_n$ が互換ならば,

$$\sigma\Delta = -\Delta.$$

sgnの定義について(2)

Lemma (I)

$\sigma, \tau \in S_n$ に対して,

$$\sigma(\tau\Delta) = (\sigma\tau)\Delta.$$

Proof.

$$\begin{aligned}\sigma((\tau\Delta)(x_1, \dots, x_n)) &\stackrel{\text{def.}}{=} \sigma(\Delta(x_{\tau(1)}, \dots, x_{\tau(n)})) \\ &\stackrel{\text{def.}}{=} \Delta(x_{\sigma\tau(1)}, \dots, x_{\sigma\tau(n)}) \\ &\stackrel{\text{def.}}{=} (\sigma\tau)\Delta(x_1, \dots, x_n).\end{aligned}$$



Lemma (II)

$\sigma \in S_n$ が互換ならば,

$$\sigma\Delta = -\Delta.$$

sgnの定義について(2)

Lemma (I)

$\sigma, \tau \in S_n$ に対して,

$$\sigma(\tau\Delta) = (\sigma\tau)\Delta.$$

Proof.

$$\begin{aligned}\sigma((\tau\Delta)(x_1, \dots, x_n)) &= \sigma(\Delta(x_{\tau(1)}, \dots, x_{\tau(n)})) \\ &= \Delta(x_{\sigma\tau(1)}, \dots, x_{\sigma\tau(n)}) \\ &= (\sigma\tau)\Delta(x_1, \dots, x_n).\end{aligned}$$



Lemma (II)

$\sigma \in S_n$ が互換ならば,

$$\sigma\Delta = -\Delta.$$

sgnの定義について(3)

命題

置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Proof.

$\sigma \in S_n$ の二つの互換の積への分解

$$\sigma = \rho_1 \dots \rho_k = \tau_1 \dots \tau_\ell$$

に対して, $(-1)^k = (-1)^\ell$ を示す. 補題 (I)と補題(II)より,

$$\sigma \Delta = (\rho_1 \dots \rho_k) \Delta = (-1)^k \Delta$$

と

$$\sigma \Delta = (\tau_1 \dots \tau_\ell) \Delta = (-1)^\ell \Delta.$$

$\Delta \neq 0$ なので, $(-1)^k = (-1)^\ell$.



sgnの定義について(3)

命題

置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Proof.

$\sigma \in S_n$ の二つの互換の積への分解

ρ_i, τ_i 互換

$$\sigma = \rho_1 \cdots \rho_k = \tau_1 \cdots \tau_\ell$$

に対して, $(-1)^k = (-1)^\ell$ を示す. 補題 (I)と補題(II)より,

$$\sigma \Delta = (\rho_1 \cdots \rho_k) \Delta = (-1)^k \Delta$$

と

$$\sigma \Delta = (\tau_1 \cdots \tau_\ell) \Delta = (-1)^\ell \Delta.$$

$\Delta \neq 0$ なので, $(-1)^k = (-1)^\ell$.



sgnの定義について(3)

命題

置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Proof.

$\sigma \in S_n$ の二つの互換の積への分解

$$\sigma = \rho_1 \dots \rho_k = \tau_1 \dots \tau_\ell$$

に対して, $(-1)^k = (-1)^\ell$ を示す. 補題 (I)と補題(II)より,

$$\sigma \Delta = (\rho_1 \dots \rho_k) \Delta = (-1)^k \Delta$$

と

$$\sigma \Delta = \rho_1 \dots \rho_\ell \Delta = (-1)^\ell \Delta.$$

$\Delta \neq 0$ なので, $(-1)^k = (-1)^\ell$.



sgnの定義について(3)

命題

置換 σ の符号 $\text{sgn}(\sigma)$ は互換の積の表し方によらない.

Proof.

$\sigma \in S_n$ の二つの互換の積への分解

$$\sigma = \rho_1 \dots \rho_k = \tau_1 \dots \tau_\ell$$

に対して, $(-1)^k = (-1)^\ell$ を示す. 補題 (I)と補題(II)より,

$$\sigma \Delta = (\rho_1 \dots \rho_k) \Delta = (-1)^k \Delta$$

と

$$\sigma \Delta = (\tau_1 \dots \tau_\ell) \Delta = (-1)^\ell \Delta.$$

$\Delta \neq 0$ なので, $(-1)^k = (-1)^\ell$.



Lemma (II)について

Lemma (II)

$\sigma \in S_n$ が互換ならば,

$$\sigma\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例1 : $n = 4$, $\sigma = (1, 2)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((1, 2)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_2, x_1, x_3, x_4) \\ &= (x_2 - x_1)(x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$(x_1 - x_2) = -(x_2 - x_1) \text{ と}$$

$$(x_1 - x_3)(x_2 - x_3) = (x_2 - x_3)(x_1 - x_3)$$

$$(x_1 - x_4)(x_2 - x_4) = (x_2 - x_4)(x_1 - x_4)$$

なので,

$$(1, 2)\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例1 : $n = 4$, $\sigma = (1, 2)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((1, 2)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_2, x_1, x_3, x_4) \\ &= (x_2 - x_1)(x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$(x_1 - x_2) = -(x_2 - x_1) \text{ と}$$

$$(x_1 - x_3)(x_2 - x_3) = (x_2 - x_3)(x_1 - x_3)$$

$$(x_1 - x_4)(x_2 - x_4) = (x_2 - x_4)(x_1 - x_4)$$

なので,

$$(1, 2)\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例1 : $n = 4$, $\sigma = (1, 2)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((1, 2)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_2, x_1, x_3, x_4) \\ &= (x_2 - x_1)(x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$(x_1 - x_2) = -(x_2 - x_1) \text{ と}$$

$$(x_1 - x_3)(x_2 - x_3) = (x_2 - x_3)(x_1 - x_3)$$

$$(x_1 - x_4)(x_2 - x_4) = (x_2 - x_4)(x_1 - x_4)$$

なので,

$$(1, 2)\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例2 : $n = 4$, $\sigma = (2, 4)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((2, 4)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_1, x_4, x_3, x_2) \\ &= (x_1 - x_4)(x_1 - x_3)(x_1 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_4 - x_3)(x_4 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_2).\end{aligned}$$

$$(x_2 - x_4) = -(x_4 - x_2) \text{ と}$$

$$(x_1 - x_2)(x_1 - x_4) = (x_1 - x_4)(x_1 - x_2)$$

$$(x_2 - x_3)(x_3 - x_4) = (x_4 - x_3)(x_3 - x_2)$$

なので,

$$(2, 4)\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例2 : $n = 4$, $\sigma = (2, 4)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((2, 4)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_1, x_4, x_3, x_2) \\ &= (x_1 - x_4)(x_1 - x_3)(x_1 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_4 - x_3)(x_4 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_2).\end{aligned}$$

$$(x_2 - x_4) = -(x_4 - x_2) \text{ と}$$

$$\begin{aligned}(x_1 - x_2)(x_1 - x_4) &= (x_1 - x_4)(x_1 - x_2) \\ (x_2 - x_3)(x_3 - x_4) &= (x_4 - x_3)(x_3 - x_2)\end{aligned}$$

なので,

$$(2, 4)\Delta = -\Delta.$$

Lemma (II)について

例2 : $n = 4$, $\sigma = (2, 4)$ のとき,

$$\begin{aligned}\Delta(x_1, x_2, x_3, x_4) &= (x_1 - x_2)(x_1 - x_3)(x_1 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_2 - x_3)(x_2 - x_4) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_4).\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}((2, 4)\Delta)(x_1, x_2, x_3, x_4) &= \Delta(x_1, x_4, x_3, x_2) \\ &= (x_1 - x_4)(x_1 - x_3)(x_1 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_4 - x_3)(x_4 - x_2) \\ &\quad \cdot (x_3 - x_2).\end{aligned}$$

$$(x_2 - x_4) = -(x_4 - x_2) \text{ と}$$

$$\begin{aligned}(x_1 - x_2)(x_1 - x_4) &= (x_1 - x_4)(x_1 - x_2) \\ (x_2 - x_3)(x_3 - x_4) &= (x_4 - x_3)(x_3 - x_2)\end{aligned}$$

なので,

$$(2, 4)\Delta = -\Delta.$$